

古文書を読む会学習記録

作成日 平成25年6月30日

開催日	平成25年6月27日	時 間	10:00~12:00
場 所	金沢公会堂3号室	出席人数	13 名
講 師	真田雅行氏	作成者	高杉和枝
テーマ	第二学習 富士大山道中雑記 附江之嶋鎌倉②		
概 要	<p>甲斐の国を出立した時は六人であったが、途中で二名が帰郷し、鎧・伝・籐・筆者・音蔵の四人となる。最乗寺道了大権現から藤沢宿までの記録である。最乗寺の参詣では荷物を茶屋に預けた。手水遣所より上に行くには、かぶり物や履物や荷物が禁じられている。途中筆者は不快になり駕籠で石本(南足柄市関本)へ出る。石本宿より松田宿の間に十文字川(開成町にあり氾濫することで知られている)があり、橋銭一人分三拾二銅が掛かっている。松田宿の町屋で鮎・西瓜・桃・真桑瓜等の食材が沢山あった。この夜、伝右衛門は不快となり医師を呼んでいる。</p> <p>六月廿九日 曇</p> <p>筆者・伝・は駕籠で、鎧・籐は馬で宿を出立。田原(秦野)蓑毛を経て子安宿の大津屋より荷物を受け取る。直ちに蓑毛より登山に入る。不動尊(大山寺)・頂上の石尊宮(阿夫利神社)まで五十六丁の登りである。道筋に茶屋があり、らい光谷で非人が投げ銭を乞うていた。小天狗の杜・石尊宮・大天狗の杜はかなりの杜と記されている。不動尊伽藍は大猷院(徳川家光の院号)が再興。大山坂本から子安宿に出て、大津屋権十郎方に泊る。この宿は泊まる者が多く、裏に築山・泉水・瀧などがある。しばらく髪結いをしていなかったのも、ここの婦人に結ってもらっている。</p> <p>六月晦日 曇</p> <p>子安宿を出て、田村まで馬に乗り、伊勢原で町並みが良いと感心している。藤沢の四ツ谷へ出る所の茶屋で昼食にしたが美しい婦人がいたとある。藤沢宿には遊婦が大勢いる様子だったが素通りしている。</p> <p>全体に道中の経過や往還の描写を簡潔に記しているが、髪結いの婦人や商いの婦人、茶屋の婦人、遊婦など婦人の記事が目立つ。</p> <p>また、甲州を出て5日目に大山詣でを果し6日目に藤沢に着いており、当時の人の健脚ぶりには驚くばかりである。</p>		
補助資料	富士大山道中ルート:旅の全行程を地図に示したもの。		
備 考			
次回予定	平成25年7月11日 10:00~12:00	於:	金沢地区センター余暇室 柴村・斎田家文書 ⑦